

令和7年5月29日

認定 NPO を目指して

アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ 新理事長
内海 眞

「アフリカ支援 アサンテ ナゴヤ」は、今から 15 年以上前の 2008 年 1 月に発足しました。発足時のメンバーの幾人かは、2000 年からケニアのナイロビにあるスラム・プムワニ村の無料医療キャンプと HIV 感染症予防活動（稲田頼太郎博士中心）に参加してきましたが、2009 年にはアサンテ ナゴヤの活動の場をケニア西部に位置するゲム村に移すことになりました。その理由は、名古屋在住の讃岐珠緒さんが彼女のケニアの親友であるメリーさんの故郷ゲム村の HIV 感染症/AIDS の蔓延状況を何とか食い止めてほしい、と言う依頼をアサンテ ナゴヤにされたからです。我々はプムワニ村の支援を釧路の宮城嶋先生のチームに委ね、2009 年にゲム村の調査旅行を実施し、翌年から毎年 1 回の無料医療キャンプを開始したのです。同時に、ゲム村における我々との協働組織である RUNELD（Rural New Life Development : NGO）への経済的支援をも開始しました。

これまでの約 15 年間の成果を列記すると、以下のようになると思います。

1. ゲム村における診療所（入院病床有り）の設立（2017 年）
2. 設立に先立つ電気の導入とクリーンな水を供給できる井戸の掘削
3. 現地医療チームの編成
4. HIV 感染症/AIDS に対する啓発活動の実施
5. HIV 陽性率の減少（23%から 1.6%へ：新規受検者の陽性率の推移）
6. 診療所における抗 HIV 薬の処方実現
7. 近隣の大都市 Kisii にある病院（Kisii Teaching & Referral Hospital）との連携構築
8. ハイエースと救急車の RUNELD への寄贈（一宮中ライオンズクラブの全面的支援）
9. ケニア在住の日本人の活動支援（チャイルド・ドクター、カボンドの保育園、シロアムの園、マトマイニ・チルドレンズ・ホーム、コロゴッチョ・スラムの HIV 陽性者グループ、マゴソ・スクールなど）

当初は、2025 年の 5 月の総会においてアサンテ ナゴヤを閉じる準備を理事会でしてきました。その理由は、資金の枯渇、理事の高齢化に加え、上記のようなまだまだ十分ではないもののそれなりの成果を達成できたからです。しかし、会員の中からは存続を望む声が出始め、特に昨年 5 年振りにケニアに赴いた会員からは存続を求める強力な要望が出されました。存続を求める意見の背景には、次のようないくつかの理由があります。

1. ゲム村の診療所の医療ニーズが拡大している。

2. それに対応する病棟建設が資金不足のため途中でストップしている。
3. 現在医師一人で休みなく医療需要に対応しているが、複数の医師が必要である。
4. 医療スタッフも増加している（診療所発足当時の6名から15名へ）。
5. RUNELDの代表であるエリアス牧師からの強い存続への要請。
6. 多くの会員のケニアを愛する心。

そこで、先の総会でアサンテ ナゴヤの存続の是非をお諮りしたところ、ほぼ全員が存続に賛成されたので、アサンテ ナゴヤの存続が正式に決定されました。

存続後の最重要課題は、支援資金の獲得であります。これまでは大口の寄付が2件ほどあったためにケニアへの経済的支援には比較的余裕がありましたが、今後はそうはいきません。資金獲得のためには、まずアサンテ ナゴヤを認定NPOにする必要があります。何故なら、認定NPOに対する寄付は税控除が得られるので、個人からの寄付のみならず、企業などの法人からの寄付も集めやすくなると期待されるからです。認定NPOとして認可されるにはいくつかの条件がありますが、我々のNPOは既にその多くの条件をクリアしています。従って、認可の手続きを進めながら、同時に我々の活動に賛同して下さる会員を増やすことが必要です。会員増加は資金の増加に直結するからです。新役員のみでは会員獲得は十分ではないと思われるので、現会員の皆様方の協力を切にお願いする次第です。会員には正会員と賛助会員がありますが、総会への出席義務などの少ない賛助会員の募集をお願いしたいと思います。賛助会員数が100名を超えていれば、認定NPOの条件をさらにクリアしやすくなるからです。この5月の総会で新たな役員に選ばれた方々とともに、この最重要課題に向かって努力していきたいと思っております。引き続き会員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

将来はアサンテ ナゴヤを全国組織にして、例えばアサンテ ジャパンと命名し、いずれは私よりも若い人がこのNPOを引き継いで、より活発な認定NPOに成長させて欲しいと願っております。